

内科

胃内視鏡での咽喉の観察について

胃の内視鏡を行う際には、食道や胃以外の部位の観察も行います。鼻からのアプローチでは鼻腔の奥の上咽喉の観察が可能です。耳管の開口部の近くにできた腫瘍は、耳の閉塞感や難聴が診断のきっかけになることもあります。口を大きく開けると奥に見えるのが中咽頭で、口蓋垂や扁桃があります。この部位にできる腫瘍の症状

としては、飲み込みにくさ、嚥下時の痛みなどがありますが、とても敏感なところなので、腫瘍以外でも症状を感じることはよくあります。その奥が下咽頭で、食道に入る直上の梨状陥凹と呼ばれる窪みにできる腫瘍は男性、喫煙者、大酒家に多いのですが、気管の後方の輪状軟骨後部の腫瘍は貧血の女性に多いのが特徴です。咽喉・

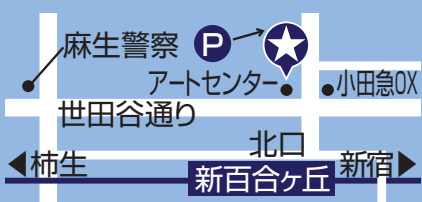
食道など扁平上皮の領域にできる腫瘍は、狭帯域光観察で発見しやすいため、通常光での観察とともに、波長を変えた光での観察が推奨されます。



福本 学

■ 内科

新百合山手福本内科



☎044-955-8877
麻生区万福寺6-7-2
メディカルモリノビル2F
<http://www.fukumotonaika.jp/>